

核戦争防止 兵庫医師の声

第79号 2010年7月号

発行 核戦争を防止する

兵庫県医師の会

〒650-0024

神戸市中央区海岸通 1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル 5F

兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807

振替 01130-6-57830

NPT再検討会議 参加感想文

NPT 日本原水協代表団活動に参加して

運営委員 井村 春樹

2010年NPT（核不拡散条約）再検討会議では最終合意文書を採択されました。アメリカの身勝手な態度により決裂した前回会議に比べ、核保有国に核兵器廃絶への「具体的な進展」を求める内容や「核兵器禁止条約の交渉の検討を提起している潘基文国連事務総長の提案に注目する」などの文言が盛り込まれた最終合意文書が採択されたことは大きな前進です。一方で、一部の核保有国が、期限をもうけて国際交渉をおこなうことなどに強く反対し、いま一步の前進がかちとれなかったことも事実です。

原水爆禁止日本協議会からの代表派遣要請に応じて核戦争を防止する兵庫県医師の会からも、小島修司運営委員、井村春樹運営委員、脇野耕一先生を代表として派遣しました。今回は井村運営委員の感想を紹介します。

このたび、5月にニューヨークの地で行われたNPT再検討会議の際に行われたNPT日本原水協兵庫県代表団に参加してきました。今回の再検討会議は「『核兵器なき世界』を達成する」という文書が採択された画期的な会議でした。しかし、世界は大きな「核兵器廃絶」への道を踏み出したとはいえ現実があります。今回の代表団の行動では自由の女神の見えるバッテリー・パークで核廃絶の署名活動を行いました。「OK.No.War!」と言って笑顔で署名を快諾いただいた方がいた一方で「This world is very dangerous!」と核兵器の必要性を主張する方もいらっしゃいました。アメリカという核保有国の中での署名活動は困難なものだと率直に感じました。核保有国に対して日本人として何ができるかを日本人一人ひとりが考えていくことが必要です。

今回のNPT再検討会議では日本からは総理大臣ではなく外務副大臣しか参加していないという事実がとても残



他の参加者と記念撮影する筆者（上、2列目真ん中）と正解中から集まった署名の入った段ボール（左）

念です。世界で唯一の被爆国の日本が世界の核廃絶に関して果たすべき役割があるのではないのでしょうか。お金や自衛隊を派遣する以外の真の意味での国際貢献の道を日本は歩むべきだと感じました。

ニューヨークのブロードウェイで行われたデモ・パレードにも参加しました。パレードの参加者の熱気とともにニューヨーク市民・アメリカ市民に核廃絶をアピールしてきました。しかし、日本での報道に比べ現地での報道はあまりなく、意図的なものさえ感じました。アメ

リカの現状を認識するとともに核兵器廃絶への道の険しさを実感することとなりました。

その中で、反核運動を主張する世界各地の青年と交流する機会に恵まれました。世界各地で反核運動は展開されており、その声はけっして小さくないことを学ぶことができました。私自身は「世界青年のつどい」において「戦争は人災。だからこそ、防ぐことができる。」という

内容のスピーチする機会に恵まれました。反核平和の声を少しずつでも世界に訴えていくことが私にできることなのだと思います。今後も反核医師の会での活動を中心に地道に活動が続けていこうと決意を新たにしました。

今回、参加するにあたってご援助いただきましたすべての皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

原水爆禁止 国民平和進行

唯一の被爆国としてアメリカの核の傘から離脱を

1958年から毎年開催されている原水爆禁止国民平和進行は、核兵器廃絶を求めて全国の市町村を結び8千キロ以上にわたり行われます。国連代表や世界の代表が参加する8月の原水爆禁止世界大会の成功をめざし、炎天下でも雨の日も休むことなく歩き続けています。

反核医師の会からも、口分田勝代表をはじめ、小泉勇運営委員、武村義人運営委員、榎林義雄先生がそれぞれの地域で参加しました。

伊丹市役所前で行われた小泉勇運営委員のあいさつを紹介します。

これから真夏のヒロシマ、ナガサキで原水爆禁止世界大会が開かれますが、今年は5月にニューヨーク国連で核不拡散条約再検討会議が開かれました。前回のブッシュ政権の妨害による失敗を取り戻すために日本



からも被爆者 伊丹市役所前で挨拶する小泉運営委員100人を含む2000人が参加、伊丹原水協からも3人が参加していただきました。

「自国の核兵器の廃絶を達成するという明確な約束の再確認」がなされましたが、前年ながら「核兵器廃絶条約の交渉開始の合意」には至りませんでした。

唯一の被爆国である日本政府が2つの重要な役割を果たせなかった背景にアメリカの核の傘で守られているこ



神戸市役所から県庁コースを行進する武村運営委員（上の真ん中）と須磨コースを行進する榎林先生（左）

とや核抑止力論という敗戦時からすり込まれた誤った認識が指摘されています。犬をしつけるには子犬の時の刷り込みが重要だと言われています。

私たちはこれからも「沖縄の海兵隊はテロの抑止力」と刷り込まれた日本政府の頭を正常にする努力をしなければならず、ますます忙しくなりますが、元気でがんばりましょう。



核兵器のない 平和で公正な世界を

核兵器のない世界へ、主人公はあなたです

8月、被爆から65年目の広島と長崎で、原水爆禁止2010年世界大会が開かれます。いま、人類の前には、「核兵器のない世界」を実現する可能性が大きく開かれています。国連の潘基文事務総長は5月1日、ニューヨークの会議で、「地平線の先に核兵器のない世界が見えています。…それが実現されるのはみなさんのような人々のおかげです」と、平和の運動をたたえました。

21世紀の次の10年を前に、ことしの大会は「核兵器のない平和で公正な世界」の実現へ、次の一步を踏み出す大会です。そのために力をあわせる多くの国の政府や国連、反核平和運動、被爆者、核被害者の代表が日本の草の根の運動と討論します。主人公は一人ひとりのあなたです。



2010 WORLD CONFERENCE AGAINST A&H BOMBS

原水爆禁止 2010年世界大会

8 | 2~4 (月) (水) 国際会議(広島)

8 | 4~6 (水) (金) 世界大会-広島

8 | 8~9 (日) (月) 世界大会-長崎

お申し込み、お問い合わせは兵庫県保険医協会 (TEL 078 - 393 - 1807) 平田・岡林まで

核戦争を防止する兵庫県医師の会 第29回総会・記念講演会

2010年NPT再検討会議の 意義と今後の課題

2010年NPT（核不拡散条約）再検討会議では最終合意文書を採択されました。アメリカの身勝手な態度により決裂した前回会議に比べ、核保有国に核兵器廃絶への「具体的な進展」を求める内容や「核兵器禁止条約の交渉の検討を提起している潘基文国連事務総長の提案に注目する」などの文言が盛り込まれた最終合意文書が採択されたことは大きな前進です。一方で、一部の核保有国が、期限をもうけて国際交渉をおこなうことなどに強く反対し、いま一歩の前進がかちとれなかったことも事実です。今回は、関西学院大学教授で原水爆禁止世界大会起草委員長の富田宏治氏に、今回のNPT再検討会議の評価を解説いただくとともに、今後の運動の方向性についてお話いただきます。

●日 時 : 7月31日(土)

15時～15時30分 総会議事

15時30分～17時 記念講演会

2010年NPT再検討会議の意義と今後の課題

講 師 富田 宏治 氏(関西学院大学教授・原水爆禁止世界大会起草委員長)

17時30分～

懇親会(会費 5,000円) 会場:ニューミュンヘン倶楽部 神戸元町店

●会 場 : 兵庫県保険医協会 第3会議室

講師プロフィール: 富田 宏治 1959年名古屋に生まれる。関西学院大学教授。名古屋大学法学部卒業。同大学院法学研究科博士後期課程を単位取得退学後、関西学院大学法学部専任講師・助教授を経た後、1999年より現職。専門は日本政治思想史。著書に『核兵器はなくせるか? Yes, we can!!』(共著、かもがわ出版、2009年)『丸山眞男―「近代主義」の射程』(関西学院大学出版会、2001年)『＜自由―社会＞主義の政治学―オルタナティブのための社会科学入門』(共著、晃洋書房、1997年)など。



お申し込み、お問い合わせは兵庫県保険医協会 (Tel 078 - 393 - 1807) 平田・岡林まで

返信 F A X 078 - 393 - 1802

●反核医師の会 総会に

☐参加

☐不参加

●記念講演会に

☐参加

☐不参加

●懇親会に

☐参加

☐不参加

氏名 ()